



環境科学部長 武政剛弘

環境科学部は、1997年10月に国立大学初の文理融合学部として発足しました。現在では、大学院博士前期・後期課程を有する充実した組織となり、学会、行政、教育・研究機関および産業界との連携も密接になってきました。一方で、地域にみられるさまざまな環境問題解決への道のりは険しく、また「環境」の意味は時代とともに変化しています。まさに、環境問題は「これからどうなるだろう」の受け身ではなく、自分自身の責任で「そのためにはどうするべきか」を考える時期にきているのです。大学も、教育と研究に加えて、時代的要請の高まりをうけて、地域への貢献が重要な役割の一つに数えられるようになっていきます。

環境科学部では、環境に係るフィールド教育・体験型教育の推進・支援を強化するべく、2007年7月に環境教育研究マネジメントセンターを学部内施設として設置しました。本センターの活動は、「地域共同研究・地域交流」「学生への教育」「情報発信」の大きく3つの柱からなっています。とくに、本センター発足の契機となった、長崎大学環境科学部、長崎県環境部及び雲仙市の三者で2007年4月に締結した「Eキャンレッジ推進事業」でも掲げたように、雲仙市や長崎県はもとより、国内外各地で展開されている地域活動の活性化にかかわり、その成果等を公開講座などの形で地域に還元していく生涯学習の機会拡充や、地域へのコンサルタント機能の充実を、今後一層推進していく所存であります。

このたび、本センターの活動を広く発信することを目的とした年報を創刊することとなりました。これまで2年度間の活動内容の紹介や、地域活動に係る実践報告・論文を収録しています。いずれも、地域の方々の協力や連携のもとに得られた成果であり、関係各位にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

環境教育研究マネジメントセンターは、発足してようやく丸2年を迎えようとしています。まだまだ、体制整備や地域への貢献のあり方について模索の段階ではありますが、この年報が、本センターへの理解促進の一助となり、地域の声を反映した活動の展開に役立つことを切に願っています。